

スイニー錠100mgに係る 医薬品リスク管理計画書

本資料に記載された情報に係る権利及び内容についての責任は株式会社三和化学研究所にあります。当該製品の適正使用に利用する以外の営利目的に本資料を利用することはできません。

株式会社三和化学研究所

スイニー錠100mgに係る
医薬品リスク管理計画書（RMP）の概要

販売名	スイニー錠100mg	有効成分	アナグリプチン
製造販売業者	株式会社三和化学研究所	薬効分類	87396
提出年月		令和3年8月	

1. 1. 安全性検討事項					
【重要な特定されたリスク】	頁	【重要な潜在的リスク】	頁	【重要な不足情報】	頁
低血糖	3	重篤な皮膚障害	5	腎機能障害患者への投与時の安全性	8
腸閉塞	4	類天疱瘡	5	肝機能障害患者への投与時の安全性	8
急性膵炎	4	感染症	6	高齢者への投与時の安全性	9
		悪性腫瘍	7	心血管系リスクへの影響	10
1. 2. 有効性に関する検討事項					
長期投与時の有効性	11	速効型インスリン分泌促進薬、インスリン製剤、SGLT2 阻害薬等との併用時の有効性	11		

↓上記に基づく安全性監視のための活動

2. 医薬品安全性監視計画の概要	頁
通常の医薬品安全性監視活動	11
追加の医薬品安全性監視活動	
該当なし	
3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要	頁
該当なし	

↓上記に基づくリスク最小化のための活動

4. リスク最小化計画の概要	頁
通常のリスク最小化活動	12
追加のリスク最小化活動	
患者向け資材（スイニー錠100mg を服用される患者様へ）の作成及び提供	12

各項目の内容はRMPの本文でご確認下さい。

(別紙様式)

医薬品リスク管理計画書

令和3年8月27日

独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長 殿

住 所 : 名古屋市東区東外堀町 35 番地

氏 名 : 株式会社三和化学研究所

代表取締役社長 磯野 修作

標記について次のとおり提出します。

品目の概要			
承認年月日	2012年9月28日	薬効分類	87396
再審査期間	8年	承認番号	22400AMX01387000
国際誕生日	2012年9月28日		
販売名	スイニー錠 100mg		
有効成分	アナグリプチン		
含量及び剤型	1錠中にアナグリプチン 100mg を含有するフィルムコーティング錠		
用法及び用量	通常、成人にはアナグリプチンとして1回 100mg を1日2回朝夕に経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら1回量を 200mg まで増量することができる。		
効能又は効果	2型糖尿病		
承認条件	医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。		
備考	本剤は、2012年9月28日に「2型糖尿病（ただし、下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る①食事療法、運動療法のみ②食事療法、運動療法に加えて α -グルコシダーゼ阻害剤を使用③食事療法、運動療法に加えてビグアナイド系薬剤を使用④食事療法、運動療法に加えてスルホニルウレア剤を使用⑤食事療法、運動療法に加えてチアゾリジン系薬剤を使用）」の [効能・効果] で承認を取得した。2015年12月21日に [効能・効果] を「2型糖尿病」へ変更する承認事項一部変更承認を取得した。		

変更の履歴

前回提出日：令和3年2月22日

変更内容の概要：

1. 「5.1 医薬品安全性監視計画の一覧」の「通常の医薬品安全性監視活動」を「副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・確認・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）」から「副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・評価・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）」に変更（軽微変更）。
2. 「6.2 安全管理業務のための組織体制」の変更（軽微変更）。

変更理由：

1. 記載整備のため。
2. 組織一部改編のため。

1. 医薬品リスク管理計画の概要

1. 1 安全性検討事項

重要な特定されたリスク	
低血糖	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 血糖降下薬による糖尿病治療において、低血糖は重要な基本的注意事項である。2. DPP-4阻害剤は血糖依存的にインスリン分泌を促進することから、単剤では低血糖を引き起こす可能性は低いと考えられるが、他の血糖降下薬との併用により血糖降下作用が増強され、低血糖のリスクが増加するおそれがある。特にインスリン製剤や血糖非依存的にインスリン分泌を促進するスルホニルウレア剤等との併用においては、重篤な低血糖が発現するおそれがある。3. 本剤の臨床試験において、低血糖症の副作用発現率は、単剤 0.9% (5/561例) に対し、インスリン製剤との併用 44.2% (53/120例)、速効型インスリン分泌促進薬との併用 9.5% (6/63例)、スルホニルウレア剤との併用 7.4% (10/135例)、チアゾリジン系薬剤との併用 2.9% (3/102例)、α-グルコシダーゼ阻害剤との併用 1.1% (1/94例)、ビグアナイド系薬剤との併用 1.0% (1/104例)であった。4. 市販後において、スルホニルウレア剤との併用で重篤な低血糖症が報告されている。 <p>以上の理由により、重要な特定されたリスクとした。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 通常の医薬品安全性監視活動 <p>【選択理由】</p> <p>通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「8. 重要な基本的注意」、「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」、「10. 相互作用」、「11. 1 重大な副作用」の項及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。・ 追加のリスク最小化活動として、患者向け資材を作成し、配布する。 <p>【選択理由】</p> <p>医療従事者に対して情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。また、患者向け資材により、患者に直接情報提供し、注意喚起するため。</p>

腸閉塞	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本剤の臨床試験において腸閉塞の報告はなかったが、便秘が3.1% (37/1179例) に認められた。 2. 市販後において、本剤との関連が疑われる腸閉塞が報告されている。 <p>以上の理由により、重要な特定されたリスクとした。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 <p>【選択理由】</p> <p>通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <p>通常のリスク最小化活動として、添付文書の「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」、「11. 1 重大な副作用」の項及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。</p> <p>【選択理由】</p> <p>医療従事者に対して情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。また、患者に対して注意を促すため。</p>
急性膵炎	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本剤は膵臓に作用する薬剤であり、DPP-4阻害による急性膵炎のリスク上昇の報告がある[1]。 2. 本剤の臨床試験において、急性膵炎の報告はなかったが、軽度なアミラーゼ上昇が0.4% (5/1179例) に認められた。 3. 市販後において、本剤との関連が疑われる急性膵炎が報告されている。 <p>以上の理由により、重要な特定されたリスクとした。</p> <p>[1] MICHAEL ELASHOFF <i>et al.</i> Gastroenterology. 2011; 141(1): 150-156.</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 <p>【選択理由】</p> <p>通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <p>通常のリスク最小化活動として、添付文書の「8. 重要な基本的注意」、「11. 1 重大な副作用」の項及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。</p> <p>【選択理由】</p> <p>医療従事者に対して情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。また、患者に対して注意を促すため。</p>

重要な潜在的リスク

重篤な皮膚障害

重要な潜在的リスクとした理由：

1. DPP-4の類縁酵素を阻害することで皮膚症状が発現するおそれがあるとの報告がある [2]。他のDPP-4阻害剤では非臨床試験において、サルへの投与で、用量と投与期間に依存した壊死性皮膚症状が報告されている。また、他のDPP-4阻害剤では市販後においても重篤な皮膚障害が報告され、使用上の注意において注意喚起されている。
2. 本剤の臨床試験において重篤な皮膚障害の報告はなかったが、皮膚及び皮下組織障害が1.3% (15/1179例) に認められた。非臨床試験においては重篤な皮膚障害の発現リスクに関する所見は認められなかった。
3. 市販後において重篤な薬疹が報告されているが、本剤との因果関係は明らかでない。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

[2] Denise M. T. Yu *et al.* FEBS Journal. 2010; 277: 1126-1144.

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

通常のリスク最小化活動として、添付文書の「11. 2 その他の副作用」に「発疹」「そう痒」を記載して注意喚起する。

【選択理由】

医療従事者に対して情報提供し、重篤な皮膚障害の発現リスクに関する理解を促すため。

類天疱瘡

重要な潜在的リスクとした理由：

1. 本剤を含むDPP-4阻害剤の市販後で重篤な類天疱瘡が報告されている。
2. 類天疱瘡の発現機序は不明であるが、本剤で報告された類天疱瘡の多くは、類天疱瘡が好発する高齢者での報告であった。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

通常のリスク最小化活動として、添付文書の「11. 1 重大な副作用」の項及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。

【選択理由】

医療従事者に対して情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。また、患者に対して注意を促すため。

感染症

重要な潜在的リスクとした理由：

1. DPP-4阻害による免疫系への影響や感染症のリスク上昇については多くの報告があるため、関連性について懸念されている[3][4][5][6]。
2. 本剤の臨床試験において重篤な感染症の報告はなかったが、鼻咽頭炎が0.4% (5/1179例)、蜂巣炎が0.3% (3/1179例)、上気道の炎症が0.2% (2/1179例)に認められた。非臨床試験においては感染症の発現リスクに関する所見は認められなかった。
3. 市販後において重篤な蜂巣炎、非重篤な鼻咽頭炎等が報告されているが、本剤との因果関係は明らかでない。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

[3] M. D. GORRELL *et al.* Scand. J. Immunol. 2001; 54: 249-264.

[4] Kei Ohnuma *et al.* Trends Immunol. 2008; 29: 295-301.

[5] Rence E. Amori *et al.* JAMA. 2007; 298(2): 194-206.

[6] Thomas Karagiannis *et al.* BMJ. 2012; 344: e1369.

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

通常のリスク最小化活動として、添付文書の「11. 2 その他の副作用」に「鼻咽頭炎」「蜂巣炎」を記載して注意喚起する。

【選択理由】

医療従事者に対して情報提供し、感染症の発現リスクに関する理解を促すため。

悪性腫瘍

重要な潜在的リスクとした理由：

1. 本剤の臨床試験において、悪性腫瘍の発現リスク上昇は認められていないが、ラットを用いた104週間反復経口投与によるがん原性試験において、1000mg/kg/日以上投与例（臨床での最大投与量の140倍以上）で、肝臓の血管肉腫及び膀胱の移行上皮乳頭腫の発生頻度の増加が認められた。
2. 臨床において、DPP-4を長期間阻害したときの悪性腫瘍の発現リスクに関しては肯定的な報告と否定的な報告があり、明確となっていない[7][8][9]。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

[7] Alexandra E. Butler *et al.* DIABETES. 2013; 62: 2595-2604.

[8] Amy G. Egan *et al.* N ENGL J MED. 2014; 370(9): 794-797.

[9] M. Monami *et al.* Diabetes, Obesity and Metabolism. 2014; 16: 48-56.

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

通常のリスク最小化活動として、添付文書の「15. その他の注意」にがん原性試験の結果を記載して注意喚起する。

【選択理由】

医療従事者に対して情報提供し、悪性腫瘍の発現リスクに関する理解を促すため。

重要な不足情報

腎機能障害患者への投与時の安全性

重要な不足情報とした理由：

1. 本剤の臨床試験において、軽度腎機能障害患者は 691 例、中等度腎機能障害患者は 87 例含まれ、腎機能障害患者における有害事象の発現リスク上昇は認められなかった。しかしながら、臨床試験では重篤な腎疾患を有する患者及び血清クレアチニンが男性 1.5mg/dL 以上、女性 1.3mg/dL 以上の患者は除外しており、重度腎機能障害患者及び末期腎不全患者への使用経験はない。
2. 本剤の薬物動態試験において、腎機能障害患者では排泄の遅延により血中濃度が上昇することが報告されている。
3. 糖尿病患者は腎機能障害を合併する頻度が高く、市販後において腎機能障害を有する患者への使用が想定される。

以上の理由により、重要な不足情報とした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

通常のリスク最小化活動として、添付文書の「7. 用法及び用量に関連する注意」、
「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」の項及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。

【選択理由】

医療従事者に対して、重度腎機能障害患者へ本剤を投与する際の用法・用量に関する情報を提供し、適正使用に関する理解を促すため。

肝機能障害患者への投与時の安全性

重要な不足情報とした理由：

1. 本剤の臨床試験において、肝胆道系障害を合併する患者は 484 例含まれ、肝機能障害患者における有害事象の発現リスク上昇は認められなかった。しかしながら、臨床試験では重篤な肝疾患を有する患者及び AST 又は ALT が 100IU/L 以上の患者は除外しており、肝機能障害患者への使用経験が限られていた。
2. 市販後において、肝機能障害を有する患者への使用が想定される。

以上の理由により、重要な不足情報とした。

	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 <p>【選択理由】</p> <p>通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <p>なし</p> <p>【選択理由】</p> <p>現時点で特記すべき注意喚起内容はなく、新たな情報が得られた際に検討する。</p>
<p>高齢者への投与時の安全性</p>	
	<p>重要な不足情報とした理由：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本剤の臨床試験において、高齢者（65歳以上）は347例含まれ、高齢者における有害事象の発現リスク上昇は認められなかった。75歳以上の高齢者は、速効型インスリン分泌促進薬及びインスリン製剤との併用療法における臨床試験において16例含まれているのみで使用経験が限られていた。 2. 市販後において、75歳以上も含め、高齢者への使用が想定される。 <p>以上の理由により、重要な不足情報とした。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 <p>【選択理由】</p> <p>通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <p>通常のリスク最小化活動として、添付文書の「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」の項に記載して注意喚起する。</p> <p>【選択理由】</p> <p>医療従事者に対して情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>

心血管系リスクへの影響

重要な不足情報とした理由：

1. 本剤の非臨床試験においては心血管系有害事象の発現リスクに関係する所見は認められなかった。臨床試験において、心血管系有害事象が5.7% (67/1179例) に認められたが、バイタルサイン、心電図、脂質パラメーター等からは心血管系有害事象の発現リスク上昇を示唆する情報は認められなかった。しかしながら、臨床試験における投与期間は最大1年間であり、長期使用例の情報が不足している。
2. 糖尿病患者では心血管系リスクが高く、血糖降下薬による糖尿病治療において、心血管系リスクは重要な検討事項である。

以上の理由により、重要な不足情報とした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

通常の医薬品安全性監視活動により情報を収集し、評価するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

なし

【選択理由】

現時点で特記すべき注意喚起内容はなく、新たな情報が得られた際に検討する。

1. 2 有効性に関する検討事項

有効性に関する検討事項	
長期投与時の有効性	
	有効性に関する検討事項とした理由： 本剤は市販後において長期間の使用が想定されるが、開発段階では1年を超えて投与された症例はないため、使用実態下での長期使用時の有効性について検討する。
	有効性に関する調査・試験の名称： 該当なし
	調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由： 該当なし
速効型インスリン分泌促進薬、インスリン製剤、SGLT2阻害薬等との併用時の有効性	
	有効性に関する検討事項とした理由： 使用実態下での速効型インスリン分泌促進薬、インスリン製剤、SGLT2阻害薬等との併用時の有効性について検討する。
	有効性に関する調査・試験の名称： 該当なし
	調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由： 該当なし

2. 医薬品安全性監視計画の概要

通常の医薬品安全性監視活動
通常の医薬品安全性監視活動の概要： 副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・評価・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）
追加の医薬品安全性監視活動
該当なし

3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要

該当なし

4. リスク最小化計画の概要

通常のリスク最小化活動	
通常のリスク最小化活動の概要： 添付文書及び患者向医薬品ガイドによる情報提供	
追加のリスク最小化活動	
患者向け資材（スイニー錠 100mg を服用される患者様へ）の作成及び提供	
<p>【安全性検討事項】 低血糖</p> <p>【目的】 低血糖についての患者の理解を促し、低血糖の発現を未然に防止するとともに、発現した際の対処方法について情報提供する。</p> <p>【具体的な方法】 MRが医療従事者へ提供、説明し、患者への説明に際し、資材の活用を依頼する。</p> <p>【節目となる予定の時期、実施した結果に基づき採択される可能性がある更なる措置】 安全性定期報告時に、低血糖の発現状況を確認する。本結果から、リスク最小化策の更なる強化が必要と判断される場合には、資材の改訂、配布方法等の見直し、追加資材の作成等を検討する。</p> <p>報告の予定時期：安全性定期報告書提出時</p>	

5. 医薬品安全性監視計画、有効性に関する調査・試験の計画及びリスク最小化計画の一覧

5. 1 医薬品安全性監視計画の一覧

通常の医薬品安全性監視活動				
副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・評価・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）				
追加の医薬品安全性監視活動				
追加の医薬品安全性監視活動の名称	節目となる症例数／目標症例数	節目となる予定の時期	実施状況	報告書の作成予定日
長期使用に関する特定使用成績調査	目標症例数 3,000 例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告書作成時 (3 か月間観察症例対象) ・ 中間報告書作成時 (1 年間観察症例対象) ・ 中間報告書作成時 (2 年間観察症例対象) ・ 最終報告書作成時 (3 年間観察症例対象) ・ 安全性定期報告時 	終了	中間報告(3 か月間観察症例対象) : 2016 年 12 月報告済み 中間報告(1 年間観察症例対象) : 2017 年 12 月報告済み 中間報告(2 年間観察症例対象) : 2018 年 12 月報告済み 最終報告(3 年間観察症例対象) : 2020 年 12 月報告済み
速効型インスリン分泌促進薬、インスリン製剤、SGLT2 阻害薬等との併用に関する特定使用成績調査	目標症例数 1,000 例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終報告書作成時 (1 年間観察症例対象) ・ 安全性定期報告時 	終了	最終報告(1 年間観察症例対象) : 2020 年 12 月報告済み

5. 2 有効性に関する調査・試験の計画の一覧

有効性に関する調査・試験の名称	節目となる症例数／目標症例数	節目となる予定の時期	実施状況	報告書の作成予定日
長期使用に関する特定使用成績調査	目標症例数 3,000 例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告書作成時 (3 か月間観察症例対象) ・ 中間報告書作成時 (1 年間観察症例対象) ・ 中間報告書作成時 (2 年間観察症例対象) ・ 最終報告書作成時 (3 年間観察症例対象) ・ 安全性定期報告時 	終了	中間報告(3 か月間観察症例対象) : 2016 年 12 月報告済み 中間報告(1 年間観察症例対象) : 2017 年 12 月報告済み 中間報告(2 年間観察症例対象) : 2018 年 12 月報告済み 最終報告(3 年間観察症例対象) : 2020 年 12 月報告済み
速効型インスリン分泌促進薬、インスリン製剤、SGLT2 阻害薬等との併用に関する特定使用成績調査	目標症例数 1,000 例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終報告書作成時 (1 年間観察症例対象) ・ 安全性定期報告時 	終了	最終報告(1 年間観察症例対象) : 2020 年 12 月報告済み

5. 3 リスク最小化計画の一覧

通常のリスク最小化活動		
添付文書及び患者向医薬品ガイドによる情報提供		
追加のリスク最小化活動		
追加のリスク最小化活動の名称	節目となる予定の時期	実施状況
患者向け資材（スイニー錠 100mg を服用される患者様へ）の作成及び提供	安全性定期報告書の提出時	実施中